

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

2026年 2月 3日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科	高等研究院 物質-細胞統合システム拠点
職 名・学 年	特定拠点助教
氏 名	池田 幸樹

助 成 の 種 類	令和7年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研 究 集 会 名	The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2025 (Pacifichem2025)		
発 表 形 式	<input type="checkbox"/> 招 待 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 口 頭 ・ <input type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他(
発 表 題 目	Development of “Miniature antibody” technology		
開 催 場 所	アメリカ・ハワイ・ホノルル 国際会議場		
渡 航 期 間	2025年 12月 14日 ～ 2025年 12月 22日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	250,000円	
	使用した助成金額	250,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳 (差し支えなければ要した 経費総額をご記入ください)	費 目	金額(円)
		航空運賃	129,100
		宿泊費	369,806
		滞在費	58,500
		学会参加費	15,000
その他	16,360		
以上に助成金を充当			
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 円安情勢が進む中、海外学会への参加が年々難しくなっておりますが、助成金を頂きましたおかげで国際的な権威のある学会に参加でき、研究費への負担を大きく減らすことが出来ました。誠に感謝申し上げます。本制度が末長く続くことで、私を含めて様々な研究者が世界をリードするような研究に発展することと思います。今後ともどうぞよろしくお願い致します。		

成果報告書 / 池田 幸樹

1. 学会概要

- 会議名： The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2025 (Pacifichem2025)
- 開催期間： 2025 年 12 月 15 日 ～ 2025 年 12 月 20 日
- 開催場所： アメリカ, ハワイ, ホノルル, 国際会議場
- 発表題目： Development of “Miniature antibody” technology

2. 学会参加の目的

本学会は化学及び創薬における世界最大級の会議であり、最新の研究動向の把握と、自身の研究成果である「ミニチュア抗体」についての発表・議論を行うことを目的とした。また、海外の関連研究者とのネットワーク形成および共同研究の可能性を探ることも重要な目的とした。

3. 研究発表の概要と成果

自身の口頭発表では、論文として成果をまとめているミニチュア抗体について報告した。発表後には、様々な国の研究者から具体的な質問やコメントを受け、今後の研究の方向性や課題を明確にする上で極めて有益なフィードバックを得ることができた。また、かねてより共同研究を実施している研究者たちとの意見交換を通じて、新しい視点や知見を得たことは、今後の研究進展に大きく寄与するものである。

4. 学会全体を通じた所感と今後の展望

今回の学会では、特に現在トレンドとなっているタンパク質デザイン技術や理論に関するセッションが活況を呈しており、国際的な研究水準を肌で感じる事ができた。得られた最新の知見と構築した人的ネットワークを活かし、本研究成果を国際学術誌へ投稿する準備を進める。

5. 謝辞

末筆ながら、本学会への参加にあたり、貴重な渡航助成を賜りました京都大学教育研究振興財団及び関係者様方に深く感謝申し上げます。